

愛知県豊橋市

「百農人」農業で観光誘致

わが町
期待の星

大葉や花きなどの生産が盛んで、市町村別農業産出額では全国有数の愛知県豊橋市で、1次産品を消費者に直販する農業経営者をランキングする

「豊橋百農人（ひゃくのうじん）」という取り組みが注目を浴びている。品質だけでなく、情報発信に対する意欲などを顧客や経営者間で評価し、順位づけする。参加者たちは農業を観光客を呼び込む武器にしたいと考えている。

2009年に百農人を



「豊橋百農人」ののほりを掲げて1次産品を売る（愛知県豊橋市）

提唱したのはレモン栽培を手掛ける河合浩樹氏。「小売りや卸の値下げ要求は厳しくなるばかり。作物をブランド化して消費者に直接売りたい」。同じ志を持つ経営者を募り、各自が「豊橋百農人」を名乗りネットでの販売やイベントで共同の売り場を出すようにした。

百農人は1つの産品あたり2人までと決められている。現在は首位の河合氏のほか大葉や茶、養豚などで6人。まず130項目を自己評価しサポーターと呼ばれる顧客や経営者間の審査を通じて認定される。評価項目には「事業内容や信念を2時間以上話せるか」といったアピール力、簿記の理解度などが並ぶ。評価は厳格で2人が認定を取り消された。

ランキングが興味を集め、農場見学する例などが増えているという。今後は飲食店と組み百農人の産品を使う料理を出すなどして「豊橋の観光客を増やすことに貢献する」（河合氏）考えた。